

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鶴ヶ峰もえぎ（単位2：さくら）			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日 ~ 2025年 12月 1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年 11月 25日 ~ 2025年 12月 5日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの「自己選択」を大事にした支援ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 複数プログラムのを準備し、選択できる機会を作っている。 「自由時間」の過ごし方と一緒に模索する機会を作っている。 子どもの変化等を日々職員間で共有し、意思決定の材料としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 機会の提供は引き続き維持できるよう努める。 職員共有については不足している部分は最善の方法を検討し実施していく。
2	活動プログラム内容が固定化しないよう提供できている。	<ul style="list-style-type: none"> 定例会議までの各担当からの意見出し 活動をおこなっての子どもの様子の共有 子ども会議から出た意見の反映 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの「すき」や「興味がある」ことを日々共有し活動に反映できるよう努める。 おこなったことのないプログラムにも挑戦できるよう複数プランを用意して提供していく。
3	地域交流の機会が年2回必ず実施できている。	<ul style="list-style-type: none"> 春のさくらまつり、秋の収穫祭と2回とも地域の方含めて300名以上の来場者を迎えることができた。開催までの準備など職員の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの来場者を迎えるにあたり、より良い運営方法を検討していく。例えば動線の確保や食事提供までの時間の短縮など。 きょうだい児や地域の学童クラブなどにも積極的にお声がけする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化や子どもの個別ブースの提供	<ul style="list-style-type: none"> 手すりはあるものの、階段が数段あり、完全なバリアフリー化は図っていない。 園庭においても段差がある箇所があり、完全なバリアフリー化は図っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資の予算を立て、計画的に改善を図る。大掛かりな工事などが必要な場合は長期的に計画を立てていく。 子どもの個別ブースに関しては荷物を撤去し、子どもがいつでも利用できるよう整えていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと向き合う時間の確保 子どもの特性・能力・嗜好等に応じた人材の確保及び育成 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が多く在籍する当クラスにおいて、子どもからの相談に乗ったり、学習課題等にもゆっくりと向き合う時間の確保が必要と思われる。 マンツーマン対応を必要とする子どもに対してのフォローバック体制、人材育成をしていく必要がある。 ミシンや細かいビーズ制作など、子どもの能力や嗜好に合わせた職員が配置できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員のスキルアップ、専門的人材の確保に努める。 支援時間外での業務の効率化、簡素化を図り、支援時間には出勤職員の最大人数が支援に当たれるよう努める。
3			